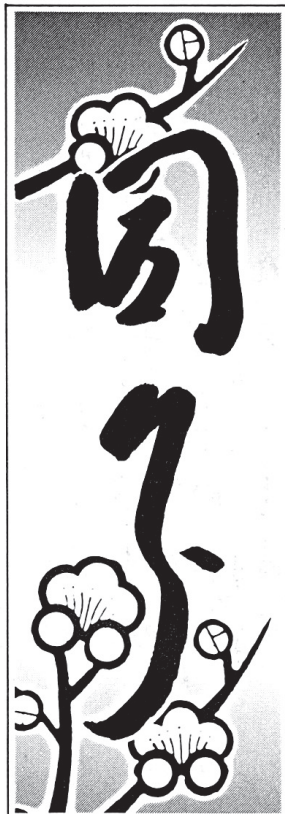


# 秋田の梅花流 V



平成4年8月9日  
第6号

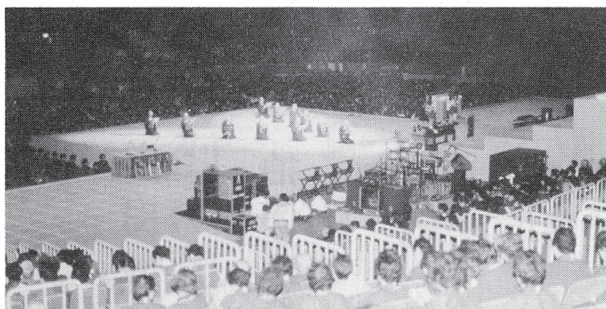
題字 大館市宗福寺住職 加藤信三老師御染筆  
発行所 北秋田郡森吉町本城 浄福寺内  
秋田県梅花流師範会事務局  
発行者 亀谷健樹  
編集者 (広報部) 柴田弘一・保坂春聡  
印刷所 秋田県北秋田郡森吉町米内沢 武石印刷 ☎0186-72-3319

## 四十年、ほとけに出会う

先日五月二十六、二十七日の両日、梅花流発足四十周年奉讃の記念奉詠大会が三万余名の講員が集い、横浜で盛大に行われた。秋田県からも五百余名が参加、代表者による登壇奉詠が行われました。

大会の様子はビデオ等で今後ごらん頂ける事ですが、本当に「素晴らしい！」の一言でした。参加された講員お一人お一人が「四十年になるのか、これはずみに明日から又一生懸命梅花の道に進もうと」感じられた事でしょう。

私も梅花を初めて三十八年、長いような短かいような……。梅花にたずさわって良かったとつくづく感ずる此の頃です。秋田県の梅花も若い師範が出て来て何も心配することが有りません。若手師範の企図に依る「心のハーモニー」は全国に誇れる秋田の実力です。私と同世代の各地の師範より



全国大会 於. 横浜 5/26・27

「秋田は素晴らしいですね」と賛辞を頂き、我が事のように嬉しかったです。

未だ梅花にご因縁のないお方もどうぞ躊躇する事なく、梅花の道に入る事をお勧めいたします。若い師範、若い詠範のおい出の講は若い講員さんが多いですね。お互お互梅花の素晴らしさを力説して若いお方にお勧め下さい。

そうしないと私共が、世の中のお勤めが終ったあとがさびしいですからね！

八月の県奉詠大会にて元氣にお会いすることを楽しみにしています。



北秋田郡比内町  
全心寺住職

佐藤仁鳳

四十年記念大会参加すと

七十路なかばこころはづみで

二万人集う御詠歌大会に

吾はアリーナの最上階に

一参加講員

梅花流創立四十周年記念新曲

四摂法御和讃

作詞 辻 淳彦  
作曲 安田博道

願いを込めて明るく

拍速四八位

な	ひ	わ	も		(一)	し		(頭)
が	し	き	し		(二)	あ		
れ	と	だ	の		(三)	わ		
の	の	す	と		(四)	せ		
う	た	あ	お			ね		
し	め	し	し			こ		
み	に	い	え			ろ		
に	と	の	を			の		
い	な	こ	わ			い		(衆)
る	す	と	か			も		
に	わ	の	ち			ろ		
に	ぎ	は	あ			と		
て	は	は	い			も		
						に		

新曲を頂きました

私達佛教徒に取りまして佛教の經典は大変難しく、簡単には理解出来ぬま、朝夕のお勤めにお唱えさせて頂いて居りました。

此の度梅花流詠讃歌四十周年記念奉讃大会に出席出来まして、新曲四摂法御和讃の発表をこの目で見、この耳で聞かせて頂きました事は本当に有り難い佛縁でございました。

新曲は、分り易い言葉で修証義第四章「発願利生」の一節「衆生を利益す」というは四枚の般若あり、一者布施、二者愛語、三者利行、四者同事」という言葉を説いておりました。

くわしい解説は、プログラムの冊子に書かれてありますので、それを読ませて頂いて四摂法御和讃は尊い教えを現代の私達に分り易く教えて下さっている事を知りあらためて深く感謝致しました。

言葉はもと／＼お互の意志を通じ合う為にあるものですから、一言一句と云えども人を傷つける様な事があってはなりません。常に慈愛に満ち溢れていなければ人の心を



# シリーズ おらほの梅花講

## ほうしょうじ 宝昌寺

住所 山本郡藤里町藤琴三  
(九教区)  
設立 昭和五十七年二月  
講長 新川孝道  
講員数 二十五名

白神山麓の町、宝昌寺梅花講です。

ある時、観音講の仲間の人がお寺で「梅花」というのをやっているのでもやられないかなと言ってる矢先、お寺の奥さんが「他のお寺では行事の度に梅花をやるようになって、やってないと肩身が狭いわ」、「奥さんに肩身の狭い思いはさせられない」ということで観音講のメンバーの何人かで始めたのです。

おとなりの梅林寺の方丈様や講員さんにお出でいただき一年近く手ほどきをしていただきました。そのうち篤志の方が十数組の法具を用意して下さったり、お寺の奥さんも研修を受けて教えて下さるようになりました。

やる程にむずかしく、「もうだめだ」と言いながらも一回、二回と検定を受け水色房

成道会 12月8日



の仲間も十二人にもなりました。七十を過ぎて検定試験を受けるといので高校受験を控えた孫に「私もがんばるから、ばあさんもがんばれ」と励まされたなどと言い合いながらも十年余りになりました。進む程にむずかしくなりましたが特派師範の柳川先生に教えていた

先生に教えていただけようになりありがとうございます。ありがとうございます。

お寺の法要や行事、そしてお葬式などでお唱えさせていただきます。遺族から感謝の言葉をいただいたり、参列の方から感激したと言われた時は心から「梅花」をやってよかったです。

また成道会には柳川先生への感謝と忘年会を兼ねて、法要の後にお互い持ち寄りのごち走をいただきながら踊り、歌い、ゲームをしてそれは楽しい一日を過ごします。

特に柳川先生の芸はすばらしく毎年楽しみにしております。

にしております。

毎月の練習のあとは何とも言われないすがすがしい思いです。でもだんだん仲間も高齢になり練習にこれなくなってきましたので若い方が増えてくれることを願っています。

今年には梅花講設立十周年を記念して、六月に本山参拝を計画していますので楽しみにしております。

紹介者 講員 伊藤カネヨ

## そうふくじ 宗福寺

住所 大館市豊町一―四  
(十八教区)  
設立 昭和三十年四月  
講長 加藤俊明  
講員数 三十名

梅花講が結成されたのは、昭和三十年頃であったと思いますが、当時の講員の方は現在どなたもおられません。現講員は十年から十年未満の方々です。

仏様のお徳を讃えるのですから、まず和を貴ぶ心で、講員は仲よくお互い助け合っでゆくことを第一に考えていただいて、その心の上に立って、諸事を行うよう何時も話しております。とにかく、ご詠歌とゆうと皆真験に、まじめによくつとめて協力してくれまますので、有難いことだと常に感謝



一 拜啓新参者です

# 初めての御詠歌と 師範養成所

私が御詠歌を始めたのは、勧められた事もあるが、ある御寺の法会に随喜させて頂く御縁に恵まれ、法会中に御詠歌の奉詠を拝聴させていただいた事にある。詠讃師の独詠、講員の方々の奉詠が、厳肅なる中にふと、心の和む様な懐かしさがあった。のみならず、宗侶主体の法会に、これなら檀信徒の方々とも一緒にお勤めができると思ったからである。

現在、県南地区は御詠歌に馴染みがないゆえに、先々に多くの不安はあるが、思っているだけでは何も始まらないと思い、お願いして養成所に入所させて頂いた。

第九期養成所(二ヶ年)は、平成三年度は八月二十六日、三十日、十一月十一日、十五日、平成四年一月二十七日、三十一日の計三回、四泊五日の日程で、宗務庁研修道場で開催された。

第九期生は八十二名、四班構成で、班単位で当番(開・閉講式、朝課、清掃、講習の準備、後片付け等)をする。第一回目初日は、講師の方々の紹介、班単位での自己紹介(初心者自分だけでない事に安心する)。早速講習に入り、法具の解き方、組

み方、持ち方を教えて頂いた。不慣れの為力が入り過ぎ、手は震えるし汗は滲むし思い通りにできない。この先どうなる事かと不安に駆られた。

二日目から四日目まで、五時半振鈴、坐禅、朝課、清掃、七時朝食、八時十時十時十二時講習、昼食、一時三時三時五時講習、夕食、六時八時講習と一日十時間の講習。体が痛い所だらけになった。又、詠唱の時では、八十二名が一斉にお唱えをするので、できると錯覚し、順番にひとりずつやると音程がずれていて、何回も唱えさせられた(結局飛ばされた)膝で拍を取ってのお唱えができる様になっても鈴鉦を付けると鈴の入らないところに入れたり、打ち返しをとばして最後が合わなかったり、慌てて鈴はチリチリ、思い出した様に鉦を打ったりと、おまけに自分で作詞したりと。「勝手に曲を替えないで下さいね」講師の方の優しくも棘のある一言に一同大爆笑。穴があったら入りたかった第一回目だった。

第二・三回目は、宿題に出された曲を檢定方式でやり、練習はしたつもりだったが、相も変わらず鈴はチリチリ、かと思えば鳴らない。鉦も負けじとガツツと強く打ち過ぎ、おまけに畳をトン。講師の方々も笑う事ができなくさぞ辛かった事だろう。気の

小ささと不器用をを露呈しただけだった。この様な事を繰り返しているうちに一年を終えてしまった。

しかし、月日というものはありがたいもので、お唱えだけではどうか、人に迷惑がからなかな?程度になった。

この様になるまで私を支えて下さったのが、県内梅花師範の方々、講師の方々、そして同期の受講生達である。

いつも同行同修の人がいる事に感謝し、支えを励みにして、早く一人前になれる様精進していきたい。

皆様の御法導・御法愛を宣しくお願い申し上げます。



湯沢市 東山寺内  
柿崎隆穂 (32歳)



## 「梅花にまなぶ」

定価 五〇〇円(税込)  
送料三部まで三〇九円(税込)

◎「禅の友」に三年間好評連載された「梅花にまなぶ」を、さらに加筆修正して一冊の本にしました。  
◎申し込みは、御寺を通して曹洞宗務庁頒布課へ。

じゆむ

梅花の検定の課目に「溪声」がある。その時には、かならず数珠の掛けかえをしなればならない。鉦だけで鈴がなく、片手合掌に数珠を掛けるためである。

ところが受検の講員は、アガッテいるせいか、ついうっかり……。検定

委員からこつそり注意される人が結構多い。本人はこの日のためにちゃんと教典のそのページに「ずず」などと朱書きで大きく明記しておるのに……。

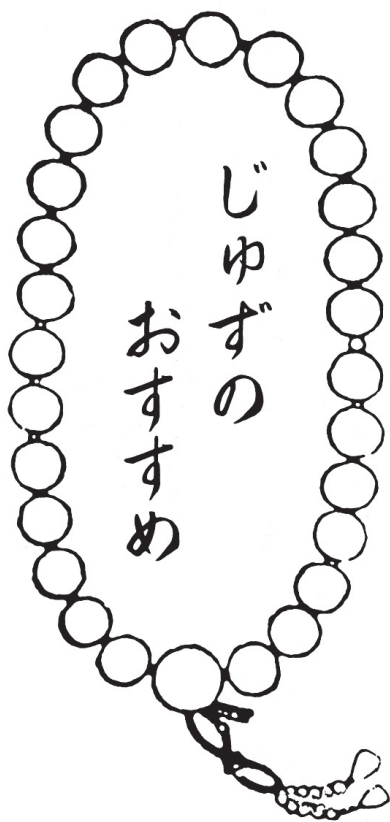
ふだん左手に、なんの気なしに掛けていたためだろうか。つまりからだの一部になっているからであらう。

私は、よほど前から少し遠くに出掛ける時には、かならず腕輪念珠を手にはめて、佛壇を拜んでゆくことにしている。それは常に佛壇の経机の中に入れてあるものだ。するとなんとなく佛さまに守護され、災難からまぬがれるような気がする。

今から二十数年ほど前に、全国保育協議会の役職に就いておった時、京都のあるお坊さん園長と知り合った。その方は常に念

珠を腕にはめていた。そしてある日、厚生省の高官と堂々と渡りあっている姿に、私はたいへん驚き入った。なにか念珠の摩訶不思議な力が、権力とか地位とかを怖れず、そうさせている気がした。つまり佛道を行じ正信を生きる心構えが、正論を述べて一歩もひかないのである。数珠は芯の強さをもたらず。

うちの梅花講員の中にも、この頃腕輪念



とか、手にはめるところが大事であろう。つまり念珠は、宗派を越えて、佛教徒、佛教信者である証明を、自分にも他者にも示しているのである。そのことにより、自らを常に律する心(悪いことが出来ない)、また少しでも世のため、人のために尽くそうとする気持ち、しだいにそなわっていく。しかも自然に、除災招福(わざわいをのぞき、福をまねく)がもたされよう。

むずかしいことはあまり考えずとも、腕輪念珠はアクセサリーとしても、イヤリングやネックレスなどより、はるかに気品のあるお人柄を示すものであると思う。皆さんがたに、平常、気軽にお掛けになることを、是非おすすめしたいわけである。

珠をはめて、団参などに行く人が多くなった。そうすると、なんとなく安心であるという。私などご本山詣りした時には、日頃お世話になっていらっしゃる方々に、お土産のひとつとしておじゆずを差しあげているが、とても喜ばれる。一種の「おまもり」として受けとって下さるのだ。

要は、佛事とか梅花関係の時だけ念珠をもちいるのでなく、日常茶飯事に持ち歩く



北秋田郡合川町  
太平寺住職  
亀谷健樹

# ごころをよむ (五)

## 誓願御和讃

閉講式や講習の最後にお唱えする「四弘誓願文」の内容・意味を御和讃として表現したのがこの曲です。

どの道に入るにも「誓約」が必要ですが、仏道を求めようとする菩薩の誓約を「誓願」といいます。「誓」は自分にかたく決意をすること、「願」は心の底から念じている大きな願いです。「誓願」と似ている言葉に「希望」がありますが、「希望」はときには無理な希望でも、かなえられる可能性があるのに対して、「願」はかなえられないけれども、願わずにはおれない。たとえば自分の子供が病気をしてお医者さんから死の宣告を受けても、親だけは塩断ち、お茶断ちをしても回復を祈り、信じる、そうせずにはおれないというのが「願」です。この願がさらに高められ、ひろめられて、あらゆる人々にとうとうと如来、菩薩の誓願があるのです。それぞれの如来、菩薩には持ち前の誓願がありますが、総じて四つの弘い大きな誓願を立てますので「四弘誓願」といいます。つまり、私共に何としても本当のしあわせを実現させたいとい

う大慈悲のお心が「四弘誓願文」の内容なのです。

- (一) 顕われざれども 隠れなき  
本来そなわる 道のある
- (二) 覺りて深きに 届くほど  
足らわぬ日毎の歎かるる
- (三) 広きは教法の 門にして  
強きは分け入る ころざし
- (四) 人にも世にも 光明よ  
照らしてあまねく 満ちわたれ

最初に書きましたように「四弘誓願文」の一句目から四句目までを、それぞれ一番から四番までの和讃に歌いあげております。

衆生無辺誓願度(衆生は無辺なれども、誓って度せんことを願う)

煩惱無尽誓願断(煩惱は無尽なれども、誓って断せんことを願う)

法門無量誓願学(法門は無量なれども、誓って学ばんことを願う)

仏道無上誓願成(仏道は無上なれども誓って成ぜんことを願う)

(一) 私共は日頃、煩雑な生活に追われていると気がつかないが、本来誰れにもそなわる仏性を抱いており、仏道の真只中におります。たとえ、かくれていても必ず仏性があるのだから、気がつくのが十分でないま



でも、そう信じなさいと呼びかけて下さる。数限りない衆生をそのことに気づかせ、済度せんとの菩薩の願です。

(二) 煩惱は無尽ですから、日々の生活をまことの道(仏の教え)に照らしてみても、正しいかどうか問いただしてゆかなければなりません。そうすると十分でない、まともでない自分に気がつきます。従ってその自分の行いを先ず懺悔して行くことが大事なのです。

(三) み仏の教えは勿論ですが、物事の道理、善悪、すべて学ぼうとすればするほど無量で広く深いものです。強い意志をもたなければなりません。が、「われ以外はみな師なり」という言葉があるように、人も自然もあらゆるものが先生であり、教えであって私共の前に門を広げていてくれます。

(四) 人さまのために、世の中のために本当のしあわせを創り出すこと、自分より先に他をわたそうという尊い願をおこし、成就するようないつとめること。一切の人々が本来そなわる仏性にめざめ、行いとして現われる時が、光明が満ちわたる時です。

菩薩の誓願には程遠い細やかなことでも発願し、実践につとめたいものです。

大館市 温泉寺住職 佐藤舜英



# 秋田県梅花流師範会

## 半年を振り返り

### 事務局報告

#### ◎梅花講員一泊研修会

現師範会会長、亀谷老師の発願がかなえられ、賛同する師範有志により、第一回目の梅花講員一泊研修会が太平寺様で開催されたのが、昭和六十一年の秋でした。

参加講員には大変好評を得、その後大館の宗福寺様、二ツ井の梅林寺様と年二回の会場を設け、続ける事六年。昨年の十一月十三日・十四日は第十回目を記念し、秋田温泉「さとみ」を会場に開かれました。

講習、講話、勤行は従来通りだが、特に今回は「同行」第五号の一面に紹介された様に、夜の芸能大会は巧たくな司会者の進行の元、それぞれの特技が思う存分発揮され、昼の緊張を一度に吹き飛ばす芸人ぶりは、全員白房合格？まさしく水を得た魚の如し。一芸終る毎に渡される賞品を受ける笑顔はまた格別。

県北地域を対象に二十四講より一五七名参加され、第十回目にふさわしく盛会裡に終わった。

賞品の提供に御協力下さいました御寺院様には多大な御迷惑をお掛け致しました事

紙面をおかりし、厚くお礼申し上げます。

第十一回講員一泊研修会は、十一月二十七日・二十八日の二日間、南秋田郡天王町の自性院様を会場に、初めて中央、県南地域を対象として開催された。

地元天王町、男鹿市初め、秋田市、五城目、本城、仁賀保より十五講、それに第十七教区(大曲地域)より寺族さん五名が参

加され、合計一六六名と始まって以来最高の参加者と成った。

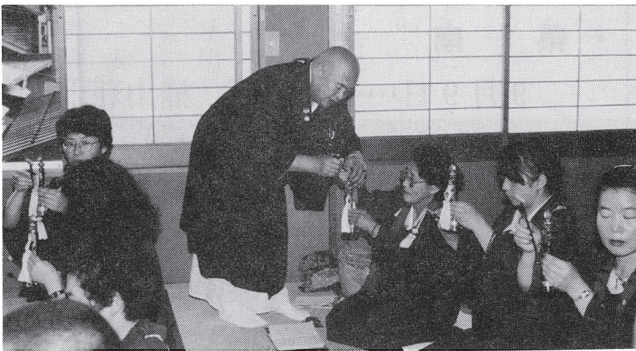
教階毎の分科会、朝夕の勤行、坐禅、講話と、参加者全員が初めての研修と有って真剣そのものだった。

#### ◎検定委員研修会

一月三十一日、森岳温泉ホテル「森山館」を会場に、検定委員の研修会が開催された。今回は検定委員が、所作と詠唱を分担しての採点方法を研修。検定も年々上級の受検者が多く成り、それだけに検定委員も研修に熱が入る。

事務局長 奥山芳寿

### 特派師範巡回講習



六月十八日より七月五日まで、県内十八会場にて、宮城県津竜院副住職の小野寺尚弘師範を講師に、特派講習会が開催された。

# オメデトウ ございます

下記の方々は、5月26日の全国大会の席上、  
創立40周年の記念として表彰されました。

天昌寺	……	小沢活全
梅林寺	……	木村正則
浄福寺	……	奥山芳寿
宗福寺	……	加藤信三
東泉寺	……	柴田弘一
慶祥寺	……	矢萩綾
恵林寺	……	本間綾
盛沢寺	……	富岳千鶴子
長年寺	……	松井しづ
仁興寺	……	沢口晶子
龍泉寺	……	佐藤テイ
玉林寺	……	桑名温子

(順不同)

## 編集後記



☆「同行」第六号発行が大変遅くなりましたことを、先づもってお詫び致します。☆海やら、夏まつり等、そしてお盆の行事とつづくこの時期、くれぐれも体調をととのえ、事故などにあわない様、日々好き日送りを心がけて参りましょう。☆「幸せねがいもろとも」……ではじまる今年の新曲。辻淳彦師の手に依るこの歌詞は大好評である。説得力のあるひとつひとつの言葉に感動すら覚えます。仏教徒として「努力精進する目標」と心得て実行して参りたいものです。

(K・S)

# ほとけに出会う 秋田県 梅花流奉詠大会



・県北  
日時 八月二十八日 午前九時半より  
会場 合川町 町民体育館

・中央・県南  
日時 八月三十日 午前十時より  
会場 大内町 農業環境改善センター

## 特設検定会

- ・ 県南  
9月9日……大内町 楠山荘
  - ・ 大館鹿角  
9月9日……鹿角市 百助旅館
  - ・ 中央  
9月21日……秋田市 さとみ温泉
  - ・ 県北  
9月21日……森吉町 龍淵寺
  - ・ 3級教範  
10月19日……秋田市 禅センター
- ※午前9時より受付、9時30分開講式  
10時より検定会  
※受検料 1,500円、  
3級教範は3,000円
- 「替節」も出来るようにして下さい。
  - 権正教導(2回目)以上は「詠題」を唱えることが出来るようにして下さい。
  - 権中教導(4回目)以上は「立行」でも唱えることが出来るようにして下さい。